

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2026

第1分科会

団 体 名 (公財) 日本スポーツ協会
副団体名 (公財) 日本スポーツ施設協会

1. テーマ

「ガバナンスコードから考える女性が活躍できる環境づくりについて」
～役員登用の課題に着目して～

2. 趣旨

スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞で示された「外部理事を25%以上、女性理事を40%以上とする」という数値目標を達成することが目的ではなく、本来は、多様性及び実効性を確保し、様々な知識・経験を有する多様な人材によって組織が構成されることが重要である。

本分科会では、特に女性役員登用の課題に着目し、課題解決に向けた成功事例の紹介や環境改善方策を検討したい。

3. 講師

コーディネーター

松永 敬子 氏（龍谷大学経営学部教授）

日本スポーツマネジメント学会 理事、日本体育・スポーツ経営学会 理事
スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞ 適合性審査委員会委員

パネリスト

小林 久美 氏（小林公認会計士事務所代表、Tokyo Athletes Office 株式会社代表取締役）
株式会社コーセー 社外取締役、伊藤忠商事株式会社 社外監査役
スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞ 適合性審査委員会委員

松田 基子 氏（大阪体育大学スポーツ科学部教授）

全日本柔道連盟 理事、全日本学生柔道連盟 理事

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2026

第2分科会

団体名 (公社) 全国スポーツ推進委員連合
副団体名 (公財) 日本レクリエーション協会

1. テーマ

「再認識される「スポーツの価値」の実現を目指したスポーツ関係者の連携と協働」

2. 趣旨

スポーツには、「する」「見る」「支える」という価値を越えて、「集まり」「つながる」価値が期待され、人々の生きがいや幸福の実感、地域社会の再編や共生社会の実現などが期待されている。このようスポーツが持つ多様な価値や機能を実現するためには、スポーツ団体や関係者のみならず、文化・芸術、医療・福祉、経済振興などスポーツを取り巻く部局や組織との連携・協働が求められる。とりわけ地域スポーツをめぐっては、高齢社会や人口減少が進む中で、全ての人々がスポーツに関われる環境の整備とその環境を支援する人材や組織体制の確保に苦慮しており、従来の地域スポーツ推進システムの再構築が求められている。

本分科会では、部活動の地域展開やスポーツによるまちづくりや地域活性化などの事例を参考にしながら、地域スポーツに期待される新しい価値の実現に向けた連携・協働の考え方やあり方について検討し、新たな地域スポーツ推進システムの可能性と課題について意見交換する。

3. 講師

コーディネーター

藤井 和彦 氏（白鷗大学教育学部教授）
スポーツ経営 総合型地域スポーツクラブ

パネリスト

関根 正敏 氏（中央大学商学部准教授）
総合型地域スポーツクラブ ホストタウン スポーツまちづくり

森島 武芳 氏（栃木県矢板市市長）
運動部活動の地域展開 総合型地域スポーツクラブ 地域スポーツコミッション

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2026

第3分科会

団 体 名 (公財) 健康・体力づくり事業財団

副団体名 (公財) スポーツ安全協会

1. テーマ

「健康寿命延伸を目指した地域における健康づくり・介護予防の試み」

2. 趣旨

有酸素性運動の代表格であるウォーキングを週 1 回以上行う者は 4 割近くにのぼるが、筋力トレーニング（以下、筋トレ）の実施者は 1 割に過ぎない。一方、厚労省の健康づくり対策「健康日本 21（第三次）」「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」において、筋トレは初めて全年代での実施が推奨され、特に高齢者のフレイル・ロコモ予防においては、筋トレに関する多くの知見が蓄積されている。超高齢社会の我が国において、健康寿命の延伸に筋トレ実施人口を増やす方策は有益と考えられる。

実施人口を増やすには、ウォーキングのように、いつでもどこでも簡単に実施でき、体力レベルの低い高齢者でも安全に行える運動様式が望ましい。貯筋運動のような加齢にともないおとろえやすい脚部を中心に鍛える自重の筋トレは、その条件に合致する。

そこで、本分科会では、地域の資源を連携させながら貯筋運動を普及・継続し、健康づくりや介護予防の成果を上げている自治体、クラブなどの活動事例を共有し、筋トレ実施者を増やす方策のヒントとしたい。

※本会議の翌日に、同じ会場で、貯筋運動普及研修会を開催します。ぜひご見学ください。

3. 講師

コーディネーター

川西 正志 氏（北翔大学特任教授・鹿屋体育大学名誉教授）

情報提供：貯筋運動の効果

パネリスト

① クラブが地域の核となって取り組む貯筋運動による健康づくりの意義

～富山県南砺市における拠点教室と山間部巡回指導の試み～

小谷 真澄 氏（NPO 法人福光スポーツクラブ）

② 貯筋運動で行政と地域を結ぶ総合型地域スポーツクラブによる介護予防の取り組み

～高知県南国市における貯筋運動受託事業からの広がり～

武市 光徳 氏（NPO 法人まほろばクラブ南国理事長）

③ 住民の力を引き出して地域展開させた貯筋運動の普及方策

～神奈川県葉山町のサロン活動～

中込 里子 氏（葉山町福祉課長補佐）

生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2026

第4分科会

団 体 名 (公財) 日本パラスポーツ協会

副団体名 (公財) 日本スポーツ・健康産業推進協会

1. テーマ

「スポーツがもたらす可能性について」

～デフアスリートからみたスポーツの価値を考える～

2. 趣旨

スポーツに求められる役割は年々多様化しており、中でもパラスポーツ体験やパラアスリートの講演等は、教育場面や企業の社員研修、自治体で行うスポーツイベントなど様々な場面で行われています。昨年11月には、聴覚に障がいのあるアスリートが主役となる国際大会「デフリンピック」が国内で初開催され、ろう者の文化や障がいに対する理解や共感、そしてデフスポーツを通じた今後の社会全体の意識改革等が期待されるところです。

本分科会は、東京2025デフリンピックの開催を契機として、デフスポーツが“聞こえない、聞こえにくい”アスリートが活躍する場であるだけでなく、すべての人にとってコミュニケーションの多様性に気づく学びの場であること、今一度パラスポーツ・デフスポーツの置かれている位置や意義、さらにはスポーツがもつ力について改めて考えることを目的に行います。

3. 講師

コーディネーター

中島 幸則 氏（筑波技術大学教授）

パネリスト

松元 卓巳 氏

デフサッカー選手／東京2025デフリンピック日本代表

亀澤 理穂 氏

デフ卓球選手／東京2025デフリンピック日本代表